

(仮 訳)

プレス・リリース

2010年3月16日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会が公表したコーポレート・ガバナンスを強化するための 諸原則

バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」)は、本日、銀行組織による健全なコーポレート・ガバナンス実務を強化するための一連の原則を公表し、市中協議に付した。

バーゼル委の文書である、「コーポレート・ガバナンスを強化するための諸原則」は、金融危機の教訓を活かしつつ、銀行組織のベストプラクティスを提示している。バーゼル委の議長を務めるウェリンク・オランダ中央銀行総裁は、「今回の危機は銀行組織の健全なコーポレート・ガバナンスの決定的な重要性を際立たせた。これらの原則の実施は、監督当局による厳格な検証やフォローアップと相俟って、銀行の安全性と健全性及び金融システムの安定度を高める、とバーゼル委は考える」と述べた。

バーゼル委の原則は、金融危機の間に明らかになった銀行のコーポレート・ガバナンスの根本的な欠陥に対処するものである。諸原則は以下を対象とする。

- ・ 取締役会 (board) の役割。自行の長期的な金融利益や安全性を勘案したリスク戦略遂行の承認ならびに監視を含む
- ・ 取締役会の資質。例えば、取締役会は、自行の有効なガバナンスと監視を可能とするために、自行が追求しようとする個々の重要な金融業務に関する十分な知識と経験を有するべき
- ・ 独立したリスク管理機能の重要性。最高リスク責任者 (chief risk officer) やその同等職位者に、十分な権限、地位、独立性、経営資源及び取締役会へのアクセスが与えられていることを含む
- ・ 組織全体及び個別事業体の双方のレベルで、継続的にリスクを認識、監視及び管理する必要性。各銀行は、外部リスク環境と自行のリスク特性に照らして適切なリスク管理体制と内部コントロールの基盤を整えるべき
- ・ 報酬制度の設計や運用に対する取締役会の積極的な監視。金融安定理事会 (FSB) の策定した原則に合わせ、従業員の報酬が慎重なリスクテイクと整合的であるよう注意深く調整することを含む

諸原則では、取締役会と上級管理職が銀行の業務構造やリスクを明確に把握し、理解していることの重要性も強調されている。把握・理解すべきリスクには、特別目的事業体(SPE)やそれに関わる構造から生じるリスクも含まれる。

監督当局も、銀行による良好なコーポレート・ガバナンスの実践を確保するための重要な役割を担っている。監督当局は、バーゼル委の諸原則と統合的な指針や規則を策定し、強固なコーポレート・ガバナンス戦略、方針及び手続を備えることを銀行に求めるべきである。監督当局は、銀行の規模、複雑性、構造及びリスク特性に応じて、それぞれの銀行のコーポレート・ガバナンス方針や慣行、及び、バーゼル委の諸原則を如何に実施しているかを定期的に評価すべきである。

コーポレート・ガバナンス作業部会の議長である、ヌイ・フランス銀行委員会事務局長は、「コーポレート・ガバナンスの基本理念に対する配慮が不十分であると、金融機関とその継続的な存続能力に壊滅的な影響を与える可能性があることを、金融危機は如実に示した。多くの銀行がコーポレート・ガバナンスの基本理念を完全に実施していなかったことは明白である。明らかな教訓は、銀行がコーポレート・ガバナンス実務を改善する必要のあること、また、健全なコーポレート・ガバナンス原則が完全かつ一貫性を持って実施されていることを監督当局が確認しなければならないことである」と述べた。

コーポレート・ガバナンスを改善する必要性は、他の金融セクターにおいても見受けられた。このためバーゼル委は、本日公表した原則の作成に際し、保険監督者国際機構(IAIS)と協働して作業を進めてきた。IAISは現在、コーポレート・ガバナンスの分野を強化するために保険コア・プリンシプルの見直しを行っている。バーゼル委とIAISは、それぞれの原則の健全な実施を監視するための協働作業を検討している。

本市中協議文書に対するコメントは、2010年6月15日までに、電子メールにより baselcommittee@bis.org 宛に提出、あるいは、「スイス連邦、CH-4002 バーゼル市、国際決済銀行、バーゼル銀行監督委員会事務局」宛に郵送されたい。